

平成30年度学校評価シート（自己評価）

菩提樹の森 幼稚園

1、園の教育目標

仏教の大慈大悲の教えを基本に、学校教育法及び幼稚園教育要領に則り、幼児の心身の健全な発達の助長をめざす。

○生命（いのち）を尊重し、正しきを見て絶えず進む子どもを育てる。

○ものごとを自主的、創造的に考えていく子どもを育てる。

○心身ともに健康で、何事も最後までやり遂げる子どもを育てる。

2、具体的な目標や計画

新幼稚園教育要領の施行から2年が経過した。今年度も評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することにより、園長はじめ幼稚園教諭自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の振り返りや改善、施設環境の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
園庭遊具の拡充 と遊具用具の活用再確認①教	C	週間、月間、期間で堰堤遊具の点検を行い安全については注意している。経年劣化などがあれば速やかに部品の交換を行っているが、新遊具の購入には至っていないので、園児の身体的知的助長を図るために、遊具のアップデートが必要と考える。
指導要録作成など園児管理業務のIT化⑫教環	A	園管理業務の合理化、ペーパーレス化を図るために、レーザーキッズアプリを導入。電話回線が2本の為、出欠席連絡の通知がスムーズにおこなわれている。ソフトの習熟はまだまだ課題。
保護者会活動の改善⑨保	B	保護者と連携して、保護者会執行部の選出方法について情報交換したり、在り方について連携をとっている。幼稚園としても必要不可欠であると考えているので引き続き協力体制を築く。
新教育要領に向けての教職員研修⑥研	A	五領域に連携して、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿を理解し、研修やディスカッションを深め幼小のs津族に配慮することができた。
園児の視診方法の再確認と予防対策②保	A	はしか、やインフルエンザの流行に鑑み、改めて園児の視診方法やクレベリンの設置、空気清浄機の管理を再確認した。学級閉鎖などの措置をとったこともあったが、大事には至らなかった。
自己評価をふまえた上での学校評価の再確認	B	前年度の自己評価を踏まえ、各行事の振り返りや課題を次年度の反映することができた。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	概ね全ての項目で評価項目を実施することができた。幼稚園事務の IT 化も進められ、保護者への連絡もスマートフォンアプリで効果的に伝えることもできた。IT 危機に頼りすぎることなく、保護者との密なコミュニケーションを欠かさず子どもの健やかな成長を常に意識する。年間行事の実行後速やかに反省会を開催し次年度への課題を教職員で共有することができた。今年度は各地で自然災害が多発した。保育中に自然災害が発生した場合の初動確認など様々な状況を想定する必要がある。今年度の評価をふまえて、次年度以降の課題に繋げていくことが重要である。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
新幼稚園教育要領を踏まえ、園の教育理念教育方針を共有する	園内外研修等を通じて幼稚園を取り巻く環境の把握に努め、自園における教育環境の改善に継続して活かしていきます。
子どもの実態に応じて具体的な手立てを講じる。	月齢や年齢、子どもの成長発達段階に応じて段階的な目標設定を行い、達成度合いに応じて、週案及び月案に反映するようにする。園生活という集団生活の中で互いに高めていけるよう、相互教育の充実も図る。
目標→実行→評価→改善の流れを確立する（PDCAサイクル）	随時行事の立案、実施、反省、改善を行っており、さらに各学期ごとに各学年、クラスの反省を行い記録を残している。今後もPDCAサイクルに則り、よりよい教育になるように努める。引き続き教育内容の立案、実行、振り返り、反省、確実なフィードバックが行われるよう、記録の保存方法や引継ぎ方法を研究する。
健康な身体づくりや運動感覚を養い、安全面に配慮した施設づくりを行う	日常点検、週一点検等を通して建物・設備・遊具等の安全点検を実施しています。子どもたちの自由な発想、好奇心興味を持てるような遊具の導入アップデートを図り健康な身体づくりや運動感覚を養う。 今後境内の森林を利用した、自然の遊具作りなどもできるとよいと思う。
バス位置情報を導入し、園バスの安全運行に寄与する	バス位置情報システムを導入し、安全に幼稚園バス運行ができるよう配慮する